

日本における水難救済の歴史を、多彩な角度から検証する本シリーズ。今回は、前回に引き続き、海事関係者より寄せられたさまざまな奉納物を見つめます。

◆ 船模型の奉納 ◆

船模型は船絵馬や大漁旗などと同じように海事関係者が海上安全を願って奉納されたものです。金刀比羅宮には、重要有形民俗文化財に指定された41艘もの奉納船模型が収蔵されています。

◆ 船模型の種類 ◆

船模型は指定によって7つの船種に分類されます。船種の内訳は「廻船」が26艘、「遊船」が6艘、「漁船」が4艘、「艇船」が2艘、「団平船」「長崎ペーロン船」「機帆船」がそれぞれ1艘ずつとなります。

このうち、2mを越える奉納模型の多くが、実物の縮尺10分の1の模型だといわれています。これは模型製作に船大工が携わっていたことと、深い関係があると考えられます。

◆ 船模型の特徴 ◆

模型の造りも実にさまざまです。前述の2mを越える船模型は、船内は少し省略されているものの、外観や組み方は実物と遜色のない精巧な造りです。一方、それよりさらに小型の模型は、船体が彫り抜かれていたり、船縁に造られた垣立(カキタツ)が外側から打ち付けられていたり、模型を縦に半分にして、背面が板に貼り付けられていた

りします。ちなみに板に貼り付けられたものは、模型というより「造り出し絵馬」に近い感じに見受けられます。

また「長崎ペーロン船」のような、地方の特色ある船も奉納されています。

◆ おわりに ◆

以上、簡単ながら船模型についてご紹介いたしました。当宮所蔵の船模型は実に多種多様で、海の神さま・こんびらさんにふさわしい質と量を誇っています。これらは純粋な信仰対象物であるとともに、造船史上の貴重な史料でもあります。

◆ 執筆者 ◆



金刀比羅宮禰宜
琴陵 泰裕氏



表菱垣廻船。文化5(1808)年、大坂剣先町京屋傳兵衛の奉納。製作は大坂海部屋市左衛門。



後期北前型弁才船。慶応元(1865)年奉納。讃岐小豆島の船大工仁兵衛の製作。



艇船。昭和11(1936)年、神戸市上組合資会社の奉納。製作は同社造船部の田中長右衛門。